



西舎地域は北海道の中央南部襟裳岬の北西に位置している。この地域は浦河町と様似町に属し 競争馬や日高昆布の産地として有名である。

この地域は地質構造区分の上では 北東半部が日高帯 南西半部が神居古潭帯に属し 前者は険しい山岳地域であるのに対し後者はなだらかな丘陵地域と地形的に好対称をなしている。

日高帯には北東隅にわずかに分布する日高変成岩類と 海底地すべり堆積物からなる神威層群 緑色岩類からなるナイ沢累層が分布している。神威層群は放散虫化石によって白亜系であることが明らかにされている。またナイ沢累層はコノドントや群虫などの化石から三疊系と考えられていたが 白亜紀放散虫化石が産出したことから 少なくともその一部は白亜系であるとされている。

一方 神居古潭帯には白亜系の空知層群と蝦夷累層群が分布しており この地域の蝦夷累層群は古くからアンモナイトなどの軟体動物化石を豊富に産出することで有名である。この報告には多数の地質柱状図やルートマップ 化石の採取地点図が示され また軟体動物化石だけでなく放散虫化石や有孔虫化石についてもまとめられている。

以上のように日高帯及び神居古潭帯には主として白亜系からなる地層が分布しているので 凡例を帯ごとに並列して両帯に分布する地層の相互関係を読み取りやすいように工夫されている。

これらの白亜系を不整合に覆って 中部中新統が断層に挟まれて幅狭く分布する。その分布は上記の両帯にまたがり 分布の東縁は日高変成帯近くまで達しており 当時の海進がかなり東部にまで及んでいたこと また地層は急傾斜し逆転層も見られることから 第三紀末以降の急激な日高山脈地域の上昇に

よって現在見られるような地質構造が形成されたことが読み取れる。

以上のようにこの図幅は従来の日高地域の地質図幅とは異なった観点でまとめられている。



5万分の1地質図幅の新刊

西 舎  
NISHICHA

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告



著 者 酒井 彰・蟹江康光

発 行 工業技術院 地質調査所

取 扱 先 東京地学協会 (03) 261-0809 262-1401

そのほか全国主要書店

販売価格 2,940円

地 質 ニ ュ ー ス	第380号	4 月 号
昭和61年4月1日	定価 ¥ 630	千 実 費
編 集	発 行	
発 行人	工業技術院地質調査所	
発 行 所	林 久 雄	
	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒 102	
	Tel. (03) 265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	

©1986 Geological Survey of Japan